

氏 名	玉川 あゆみ (たまがわ あゆみ)
学 位 の 種 類	博士(看護学)
学位授与番号	甲博看第8号
学位授与年月日	令和4年3月2日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学 位 論 文 題 名	自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるためのケアガイドの開発 (Development of Care Guidelines for the Smooth Progress of Otorhinolaryngology Treatment for Children with Autism Spectrum Disorder)
論 文 審 査 委 員	(主) 教授 鈴木 久美 教授 竹村 淳子 准教授 草野 恵美子

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

《緒言》

自閉スペクトラム障害児(以下, ASD 児)は, 脳の機能障害により, 言葉や感情の交流を通して他者との関係を築くことの難しさや新しい場所や状況の変化に対する不安の表出, 感覚過敏による苦痛の表出が強い傾向にある。そのため, ASD 児にとって医療をうける環境は非日常であり, 不安が強く不適応行動を起こしやすい。特に耳鼻咽喉科での診療ではその恐怖心や不安が強くなる傾向にある。しかし, 耳鼻咽喉科診療における支援は構築されていないのが現状である。歯科診療においては, 障害児歯科の分野が確立されており, ASD 児の診療における支援が先駆的に実践されている。そのため, 本研究では, ASD 児の歯科診療における問題と支援を明らかにし, 耳鼻咽喉科診療における支援への示唆を得ることで, 医療関係者を対象とした ASD 児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるためのケアガイドを開発することとした。

《目的》

本研究は, ASD 児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるためのケアガイドの開発を目的に, 以下の三部で構成した。
第一部: ASD 児の歯科診療における問題と支援を文献から明らかにすることを目的とした。
第二部: ASD 児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるためのケアガイドを作成するために, ASD 児の耳鼻咽喉科診療における問題と支援を明らかにすることを目的とした。
第三部: ASD 児に関わる医療関係者が活用することで, 耳鼻咽喉科診療が苦手な ASD 児の診療が円滑に進むことを目指し, ケアガイドを作成した。そして, 作成したケアガイドに対するヒアリング調査を実施し, 結果に基づく追加修正を行うことを目的とした。

《研究方法》

第一部では, 先駆的に ASD 児の診療で支援を実施している歯科診療の問題と支援について国内外 17 文献を対象に文献検討を実施した。
第二部では, 耳鼻咽喉科診療で ASD 児が抱える問題と支援について半構造化面接調査を実施した。調査は, ASD 児が継続して通院する耳鼻咽喉科で ASD 児の診療に携わっている医療関係者 19 人を対象とし, インタビュー内容を質的記述的に分析した。
第三部では, これまでの結果を踏まえて, 耳鼻咽喉科受診が苦手な自閉スペクトラム症児の診療をスムーズに進めるためのケアガイドを作成した。ケアガイドは, 第二部の結果で導き出した【診療を円滑に進めるための関係形成】、【ASD 児の主体性を支える診療】、【診療に対する適応への促し】を基盤に, 第一部で明らかになった支援内容をふまえて, ケアガイドの構成と内容を検討した。ケアガイドは, 「子どもの障害特性の理解」, 「子どもと親への基本的な関わり方」, 「診療の進め方」の3部構成で作成した。そして, さらなるケアガイドの洗練化のために ASD 児の診療に携わっている医療関係者および ASD 児の養育者 7 人を対象とし, ヒアリング調査を実施した。ヒアリング内容は, 類似する意見をまとめて要約し, 必要性の検討後, 追加修正した。

《結果および考察》

第一部の結果として, 歯科診療での問題は診察時に診察台に座れない, デンタルライトの点灯を嫌がる等の行動があげられた。このような行動に対する支援として, 多様な行動療法が用いられていた。行動療法を用いた具体的な支援内容は, ビデオや絵カードなどの視覚的素材を用いた診察及び治療内容の説明, 歯科診察をうけるための模擬練習や, 診察場所をパーテーションで区切ることで, 患児の落ち着ける環境をつくること等があげられた。このことから, ASD 児の理解を促す支援と個々のペースに合わせたステップを丁寧に支援する必要性が示唆された。この支援内容の段階を検討した結果, 自宅, 診療前, 診療中, 診療後の4段階で構成されていると

考えた。

第二部の結果として、医療関係者が捉える ASD 児の耳鼻咽喉科診療における問題は、【感覚が過敏な部位への診療に対する脅威】、【ネガティブな体験による診療への拒絶】の2つのカテゴリが抽出された。ASD 児の耳鼻咽喉科診療における支援は、【診療を円滑に進めるための関係形成】、【ASD 児の主体性を支える診療】、【診療に対する適応への促し】の3つのカテゴリが抽出された。医療関係者は、ASD 児と親が耳鼻咽喉科診療に対するネガティブな体験による心的負担を抱えていることを理解する必要がある。その上で、ASD 児と親との関係性を積極的に築き、ASD 児が主体的に診療に臨めるよう支援する必要性が示唆された。

第三部の結果として、ケアガイドに対する意見は、レイアウトの修正やケア内容の追加項目が挙げられた。また、耳鼻咽喉科診療時の頭部固定と ASD 児のパニック時における対応については、意見が二分したため、更なる検討の必要性を確認した。これらの追加修正を加え、ケアガイドの洗練化を図った。

《結論》

本研究は、医療関係者を対象とした、ASD 児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるためのケアガイドを作成し、洗練化を行った。耳鼻咽喉科診療時の頭部固定とパニック時の対応については、引き続き、継続して検討していく必要が示された。今後、臨床での適用可能性を評価し、ケアガイドを用いた有効性と効果の検証が必要である。

論文審査結果の要旨

申請者は、自閉スペクトラム症児（以下、ASD 児）が耳鼻咽喉科を受診する際に恐怖心や緊張感を抱き不適応行動につながりやすいことに着目し、その診療を円滑に進めるための医療関係者対象のケアガイドの開発をめざして3つのステップを踏んで研究に取り組まれた。

第一研究では、ASD 児の診療を先駆的に実践している歯科診療での問題と支援について明らかにするために国内外の17文献を検討した。その結果、ASD 児の問題行動として「診察時に診察台に座れない」「デンタルライトの点灯を嫌がる」等を明らかにした。このような行動への支援として多様な行動療法が用いられており、子どもの理解を促すための支援を基盤に検討し、診療前から診療終了までのステップを丁寧に支援していく必要があることを示した。

第二研究では、ASD 児が通院する耳鼻咽喉科診療に携わっている医療関係者19名を対象に、ASD 児が抱える問題と支援について半構造化面接を実施し質的記述的に分析した。その結果、医療関係者が捉える ASD 児の問題として【感覚が過敏な部位への診療に対する脅威】【ネガティブな体験による診療への拒絶】、その支援として【診療を円滑に進めるための関係形成】【ASD 児の主体性を支える診療】【診療に対する適応への促し】のカテゴリが生成されたことを示した。

第三研究では、第一研究と第二研究の結果を踏まえて、耳鼻咽喉科受診における ASD 児の診療を円滑に進めるためのケアガイドを「子どもの障害特性の理解」「子どもと親への基本的な関わり方」「診療の進め方」の観点から構成し作成した。作成されたケアガイドは、ASD 児の診療に携わっている医療関係者と養育者のヒアリング調査により、洗練化された。

本研究の独自性は、これまで注目されてこなかったASD 児の耳鼻科診療に対して医療関係者の視点からASD 児の問題やその支援について記述し、それらの結果をもとに医療関係者対象のケアガイドの開発に着手した点であり、今後耳鼻科診療を受けるASD 児とその親の診療の支援に寄与できる研究である。

審査において、1)研究課題の背景、2)研究成果の学術上及び応用面での意義、3)分析方法の妥当性および分析結果について、質疑が行われ、明解な回答が得られた。

以上により、本論文は本学大学院学則第13条第3項に定めるところの博士(看護学)の学位を授与するに値するものと認める。

(主論文公表誌)

小児保健研究：第79巻2号、184-191項、2020年